

札幌大谷大学同窓会

OTANI 真^{しん}心^{しん}会

同窓会だより

第45号 令和3年10月1日発行

〒065-8567 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷学園百周年記念館内

電話・FAX 011-743-6466

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/dousoukai/>

〈令和3年度入学式〉 4月2日（金）





札幌大谷大学 学長 千葉 潤

今年度より学長に就任いたしました千葉でございます。前職の音楽学科長時代には、同窓会の皆様に大変お世話になりました。引き続き、大学運営に対しまして、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス対応に追われた昨年の反省を生かし、今年三月には、学科別に分かれた形で卒業式を挙行いたしました。また二〇二二年度入学式に加え、コロナ禍で実施できなかった二〇二〇年度の入学式も、新年度と同日に時間を分けてカナモトホールにて挙行いたしました。在学生からの歓迎演奏も行われるなど、本学の特徴を生かした入学式の模様は、大学HPで公開されておりますので、ご高覧いただければ幸いです。

二〇二〇年度卒業生の就職実績については、全体で九八%という高い就職率を達成することができ、特に六年間連続で就職率一〇〇%を達成した社会学部は、全国紙の「大学就職ランキング」にてトッ

プに挙げられるなど、「就職に強い大谷」をアピールしております。

近年、大学には人材育成目標の明確化が求められております。本学は、親鸞聖人の「み教え」を建学の精神におき、私たち人間の本质に関わる三つの分野―「人間を育てる保育」、「人生を豊かにする芸術」、「人々をつなげる社会」―を専門的に学ぶことができる個性的な大学として、アフターコロナ社会に貢献できる人材育成を進めてまいります。今後とも、皆様からのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

千葉 潤 学長 経歴

- 一九八六年 仙台市生まれ
- 一九九一年 東京芸術大学音楽学部楽理科卒業
- 一九九四年 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
- 一九九九年 ロシア国立モスクワ大学国際教育センター修了
- 二〇〇一年 東京芸術大学大学院音楽研究科博士課程満期退学
- 二〇〇二年 ロシア国立モスクワ音楽院大学院音楽理論科修了
- 二〇〇二年 東京芸術大学音楽学部非常勤講師
- 二〇〇六年 札幌大谷大学音楽学部主任
- 二〇二二年 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部学長就任



札幌大谷大学 前学長 高橋 肇

二〇一七年四月から二〇二二年三月末までの四年間、学長職をつとめさせていただきました。一期四年という短い期間でしたが、多くの同窓生の皆様に大変お世話になりました。本来ならば直接お会いしてお礼を申し上げるべきところですが、この場をお借りして謹んで感謝の意を表したいと思っております。本当にありがとうございました。

振り返れば、この四年間は、大学認証評価、新校舎建築、建築資金調達、震災対応、大学無償化対応、コロナ対応、授業や入試のオンライン化対応など、初年度から最終年度に至るまで、それぞれ異なった困難を伴う新しい課題に直面し、それらを解決しながらの四年間となりました。私なりに考えうる限りのことは全て実践し、最善を尽くしたつもりです。なんとか無事に任期を全うし、次の世代にバトンを渡すことができたことを心より喜んでおります。

この四年間の思い出として、とりわけ二〇一九年二月にホームカミングデイを開催し、多くの同窓生の皆様と直接お会いできたことを大変嬉しく思っております。その後、コロナ禍の中で、第二回目の開催が延び延びとなっておりますが、コロナ禍の終息後に再び皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

私学経営は今後さらなる困難の時代を迎えます。学園の理事会、教授会、職員集団には学園経営の重大な責任が課されています。同窓生の皆様には、引き続き母校への叱咤激励、並びに、倍旧のご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。





札幌大谷大学同窓会 会長 小原 明美
(音楽科14期)

コロナ禍、二度目の秋を迎えました。マスク着用が日常化し、さまざまな制限での生活も一年以上になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年五月十六日に予定されておりました「ホームカミングデー」「令和三年度同窓会総会」は昨年に引き続き、中止となりました。総会議案につきましては書面表決により承認いただきましたが、来年は対面で開催できますことを願っております。

今年には音楽科、音楽学科の卒業生による第四十三回谷の音会コンサートが十一月七日、札幌コンサートホール(キタラ小ホール)にて開催されます。

開催延期、中止が続いていました演奏会も少しずつ戻ってきております。

ホールに響き渡る音の調べを多くの方々と共有できますよう、皆様のご来場をお待ち申し上げております。

来年二〇二二年は保育科キッズフェスティバル開催の年になります。

昨年は大学祭が中止、それに伴いキッズ

フェスティバルも止む無く中止となりました。

今この状況が改善され、以前のような賑わいが戻ってくることを切に願っております。

世界を揺るがした新型コロナウイルスにより私達の生活様式が変わり、考え方、人との関わり方にも大きな変化をもたらしました。

ネットでのやりとりが大きな位置を占め、仕事の効率化が進み、スピードアップにも繋がっています。同窓会の仕事もデータ化されたことにより、時間短縮で行える一方、対面での細かな作業は必須で、今後さらに役員一人一人の責任がますます大きくなることをあらためて感じています。

これからも同窓会活動にさらなるご理解、ご協力をいただけますと幸いです。変異株が主流となっている今、先の見えない状況の中で皆様が明るく健やかに過ごされますよう心より願っております。

コロナ禍の
授業風景





芸術学部学部長
美術学科長
平向 功一

同窓会の皆様には日頃より多大なご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

コロナ過で大変な一年ではありませんでしたが、今年三月に無事に卒業生を送り出すことができました。学生たちにとって本当に大変な一年だったと思います。初めてのオンライン授業、様々なプログラムの中止や変更、発表予定であった展覧会の中止など、数々の困難に負けることなく一つ一つしっかりと乗り越えながらゴールにたどり着いたことに改めて学生たちの逞しさに感心したところでもあります。さらにそのような状況下でありながら、昨年に続き就職率が九五%を超える高い結果を出してくれました。また教職課程におきましても今年も道内公立中学校と道内私立高等学校美術教員として正採用され、これで四年制改組から連続しての採用となり多くの美術教員を輩出、道内屈指の芸術教員養成の大学として認知さ

れています。卒業生の皆さんにはこの大変な社会状況ではありませんが、美術学科で学んだ創造力をいかに発揮し活躍してくれることを教員一同心より望む次第であります。

新入生におきましては昨年続き、六十九名の入学者（定員六十名）とロシアから一名の編入学生を迎えることができました。現在美術学科では全道各地や道外の高等学校、海外から約二六〇名を超える学生たちが学んでいます。コロナ対策を万全にしながら対面やオンラインなどその時の状況に合わせフレキシブルに対応し、なんとか大学での学びを止めずに進めています。まだまだ先行きが不透明ですが、学生一人ひとりを大切にしながら様々な分野で新しい社会を創り上げることができるクリエイターを育てる教育をさらに進めて参ります。同窓会の皆様には今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



芸術学部 音楽学科長
谷本 聡子

二〇二二年四月より音楽学科長を務めることになりました。

保育科に勤めていた母のお腹の中にいる〇歳で、私は大谷短大へ通っていました。ヨーロッパで過ごした学生時代も、毎年「海外研修旅行」でブダペストのリスト音楽院を訪れる大谷の学生さん達との触れ合いが続きました。その後、留学先のハンガリーから帰国、今度は非常勤講師として大谷の学舎に通うことになりました。そして十五年前には亡き高岡立子先生の元、四年制大学の設立に関わり、時代を経てこのような時期に学科長を務めることになりました。

専任教員になって、道内各地を訪れるようになると、「研修旅行でレッスンの通訳をしてもらいました。」と声をかけてくださる卒業生の方々が沢山います。それぞれの土地で活躍され、音楽の種子を大きく育て、文化の中心を担っている皆さまにお会いし、北海道の芸術文化には「おおたに」がなくてはならない存在であることを、とても強く感じます。

私の人生にとって、「おおたに」は最も大きな存在です。

今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。この一年は私達にとって、「音楽」と「教育」に改めて向き合う年となりました。

コロナ禍の中、当たり前と思っていた生活は一変し、家からオンラインの生活が続きしました。沢山のコンサートやセミナー等、行事が中止になり、人々は集えなくなりました。

一方、この一年、画面の中では新しい可能性と、その先の世界が広がりました。

しかし、生の「音」から得られる情報量の多さと、伝わる思いの強さにも、改めて気づかされました。

そんな中、卒業していった学年も就職率一〇〇%を保ち、海外への留学希望組も、今年の渡航許可に向け、前向きに準備をしています。

そして、二〇二二年は様々な場面での「選択」と「判断」が大変難しい時期となりました。

社会全体が命を生きる中で、どのような行動を取るべきか、試行錯誤を繰り返し、大きな迷いの中にあります。

学内でも、絶えずオンライン授業と実技や演習の対面授業のバランス、感染予防対策と、日々議論を重ねながら「学生達の〈今〉」にとっての最善は何か」を教職員一同も悩みながら進んでいます。

この時期を経験した私たちが、音楽に救われ、未来への勇気をもらい、幾回りも強くなって、真心会の皆さまに続く卒業生を沢山送り出すことが出来ますように、どうかお力添えのほど、よろしくお願ひ申し上げます。



社会学部学部長
地域社会学科長

西脇 裕之

同窓会の皆様には日頃より多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年の学位記授与式はコロナ禍の影響により学科ごとの開催となり、社会学部からは六期生五十四名が巣立っていきました。卒業生一人ひとりが自らの進路を決め、おかげさまで学部開設以来六年連続で就職希望者における就職決定率一〇〇%を継続しております。こうした就職実績は昨年九月に発行された『AERAムック 就職率で選ぶ大学二〇二二』でも、学部別ランキング「社会学部」で全国一位の大学として紹介されました。少人数ゼミで築かれる親密な関係性、豊富なフィールド体験型学習、学部教育の中に組み込まれたキャリア教育という本学部の学びの特色がこの実績を支えています。

四月には改定された新カリキュラムで学ぶ十期生五十四名の新入生を迎えました。新しいカリキュラムでは学び

の専門性をより深めるべく、行政法律、経済経営、教育福祉、観光メディアという四つの学習コースを導入しています。各コースとも既存の科目以外に、コースとしての専門性の高い科目を充実させました。こうして身につけた専門性は、学生が卒業後の進路を確かなものにしていくための武器となることでしょう。学生一人ひとりを大切に育てつつ、継続的に改革に取り組んでまいりますので、今後とも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



短期大学学部長
保育科学科長

中澤 香織

同窓会の皆様には、日頃より温かく見守りくださり、また多くのご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。保育科は今年三月に、多くの保育者を社会へ送り出すことができしました。内訳は、幼稚園三十名、認定こども園三十名、保育所二十五名（うち公務員保育士八名）、保育所以外の児童福祉施設十名です。また十一名が

本学専攻科等へ進学し、一名が一般職に就きました。例年同様に多くの卒業生が北海道各地で、子どもと子育て家庭を支える仕事に就きましたことは、私たちにとつてこの上ない喜びです。

この春の卒業生は、コロナ禍で、授業実習、行事、サークルなど、取り組んでいたことのほとんどについて変更を迫られた学年でした。保育者としての学びが変わるのではないかと不安をもつ学生もおりましたが、当初の計画通りに学外実習を終えることができ、希望通り保育者として就職できましたことは、

学内外の多くの方々のご理解とご協力があつてのことと、心より感謝する次第です。

さて、保育は人と人とのつながりが中心にあります。昨年からの人との接触の制限の中で学生は、直接会うこと、話すこと、同じ空間を共有することの意義を改めて感じ、周囲との関係の中で生きていくことの大切さを再認識しておりました。また、保育者の役割、社会における位置づけについても例年以上に学ぶこととなりました。コロナ禍でエッセンシャルワーカーという言葉を聞くようになりましたが、保育者が子どもを命を守り、育ちを促すことと同時に、保護者の仕事と生活を支えていることを実感する日々でもあったと思います。今後も感染対策を取りながら、子どもと家庭を支えるための教育に全力を尽くしていく所存です。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

釧路支部



「来年へ向けて」

支部長 泉 洋子

音楽科12期

昨年来の未知の禍に疲れきった日々の中、皆様如何お過ごしでしょうか。まだまだ油断はできぬ毎日ですがいつかは安堵できる日を期待したいものです。釧路支部は昨年同様、総会を行わず、書面にて内容をお伝えし同意をいただく形といたしました。来年こそ総会で集いたいものです。

また来年は当会三十五周年の年にあたり、いつもならば会員の活躍できる場として演奏会を催して参りましたが、今の先の見えない中では難しいという結論になり別の形での周年行事を考えております。

まだ日時等は決定しておりませんが、会員や地域の皆様に喜んで頂けるものにしたいと思っております。

早いもので三十五年。大学、本部をはじめ色々な方面のご理解とご協力でここまでやってこられたと思えます。

活動しにくい中ではありますが会員皆で来年に向かいたいと思っております。

十勝支部



「この一年」

支部長 植松 恵

音楽科13期

月日の過ぎるのをこれほど早く感じた一年はなかったように思います。このコロナ禍で、あまりにもたくさんの方が犠牲になってしまいました。昨年度、十勝で予定されていた響流セミナー、とても楽しみにしておりましたが、一度延期するも中止になってしまいました。今年度のセミナーも延期になった状態です。また、十勝支部では今年度周年行事を予定していましたが、なかなか準備を進めることができず、今年度の開催を断念いたしました。来年度の開催を計画しているところです。大学や本部や他支部の皆様をお迎えして安心して開催できることを願っております。

また、昨年度から、お世話になった大学の先生お二方の計報をお聞きし、大変残念に思いました。十二月にご逝去された伊藤巖先生は、教育実習の時に帯広まで来ていただき、励ましていただいたことを今でも覚えております。また六月にご逝去された木村雅信先生は、一年生の時に先生の作品である『浄土讃歌〜いちいちの華のなかよりは〜』を札幌と一緒で演奏したことがとても心に残っております。両先生のご冥福をお祈り申し上げます。

今の状況でできることは限られていますが、一日でも早く元のような生活となり、意義深い同窓会の活動ができ、皆様にお会いできることを心から願っております。

オホーツク支部



「今、オホーツク支部では」

支部長 横島 桂子

音楽科19期

昨年同様コロナの影響により様々なイベントが中止・変更している中、発足以来二〇一九年まで毎年五月に行っていたオホーツク支部総会は中止と致しました。

会員の皆様には昨年はお知らせと委任状の往復ハガキを郵送しましたが、昨年の活動がほとんど行われなかったのが今年は希望者には資料をお送りすることにしてお知らせのハガキのみを郵送致しました。

日本中ではオリンピックの話や、ワクチン接種も始まり今まで以上に変化しているように感じます。また、熱海では大きな土砂崩れなど心痛むことも起きています。

そんな中、同窓会本部より六月二十七日に木村雅信先生がお亡くなりになったとご連絡をいただきました。お世話になった先生の訃報にオホーツク支部役員一同深い悲しみと寂しさを感じております。

お世話になった先生に感謝の気持ちと共にご冥福をお祈り申し上げます。

今年度のオホーツク支部の活動については未定ですが皆様が健康に日々の生活を過ごされる事を願っております。

輝いて今……

各科のなかまたち

「学びのバトン」



石崎 博子 保育科29期

私は今、小学校で「学びのサポーター」というボランティア活動をしながら、美容・健康の仕事に携わり、リンパエステの技術や仕事の仕方を教えるという学びのバトンを渡しています。大谷で学び、幼稚園教諭としての経験を経て今改めて思うことは、人に寄り添い、人と関わることで自己成長し続けるということ。それは自分の糧となっています。今までの学びは、点と点がすべて繋がっていたということがわかりました。

コロナ禍の今はリモートで仕事をすることも多い中、画面の向こうの相手から「表現力が豊かでよく伝わる」とほめられることがあります。それは、子どもたちに想いが伝わるようにと表情・表現を意識して関わってきた経験があるからだと思います。また、子どもを導くときに意識した「認める・受け入

れる・ほめる“これは大人にも大切だと感じていますが、これらの気付きはすべて幼稚園教諭としてのベースがあったからこそだと実感しています。

「健康は宝」です。今までの経験を活かし、これからも関わる人の内面・外面をキレイに健康に導きながら笑顔いっぱいにし、「輝く人を育てる人」を育て、自分も学び続けていきたいと思っています。

「私でなければ誰か？今でなければいつ？」



安藤 友希 音楽学科6期

“If not me, who? If not now, When?”

これは、エマ・ワトソンの二〇一四年国際連合演説の一節です。

演説を初めて聴いた時、彼女の男女平等を見据え、品格がありつつ分かりやすい文章、聞きやすい発音、何かを発信しそれを多くの聴衆に伝える能力とそのセンスに深く感銘を受けたのを覚えています。

当たり前ですが、私の音楽は私しか表現できず、今の私は今しかないのです。様々な個性があるからこそ、音楽は色を持つと感ずるのではないのでしょうか。

詩に曲という背景を彩る時、歌い手はどこまでその時代や人々の感情を感じて歌えるのでしょうか。

時には尽きる事のない様々な情報に自分が押し潰される不安が湧き、それでもそれを表現しようとして死になる自分がいるのです。

ハンガリー留学から日本に帰国して一年が経ちます。現在は新人演奏会に出演するなどの音楽活動を続け、十一月七日には「谷の音会コンサート」に出演させていただきます。

移ろう時代と人の感情に沿う様な歌を、音楽を全ての人と共感出来る様な未来を目指して進んで行きたいと思っています。

「好きは力になる」



松岡奈々美 美術学科3期

大学時代は、専攻の油彩のみならず木工や版画、染色など幅広いジャンルで制作活動をしていました。平日の日中は油彩の授業や自主制作、放課後から学校が閉まるまでは染め物、休みの日は木工室でパネル作って、版画室でTシャツ刷って、というように作ることが大好きで、制作意欲に燃えていました。

作った作品や雑貨は公募展に出展したり、グループ展を企画して販売したりしていました。そうした活動の中で、同じ大学だけでなく他校の学生さんや大谷OGの方、お客さんなどたくさんの人とつながり、いろいろな人と話していくうちに自分が知らなかった美術の世界を知ることが面白く、とても充実した四年間になりました。

現在は中学校で美術教諭として働いています。限られた授業時間の中でより多くのことを楽しく学べるように授業をデザインしていくのは大変ですがワクワクもします。生徒たちの試行錯誤する様子や完成した時のびっくりした表情、嬉しそうな笑顔を想像しながら授業を作るのは楽しいです。大学時代に多くの人と関わって学んだことと力を注いでやってきた制作活動がアイデアの引き出しになっていきます。大学で身に着けた引き出しと創造する力を持ち続けてこれからも精進していきたいと思います。

「伝わらないうとかがら」



蝦名 佑美 地域社会学科5期

生活介護事業所に勤めて二年目になりました。

就労や余暇活動を中心に、障がいのある方の生活支援をしています。時には地域資源も使いながら利用者さんの困りごとを解決するプロセスは、地域社会学科の学びと繋がることも多いです。

特に「情報を伝え共有する力」は、どの過程においても求められます。

思い返せば、学生時代に友人らと取り組んだ活動においても「伝え合えていること」がカギでした。感情を表出する、目的を可視化する、課題を数字で提示する、話を振る。皆がそれぞれの方法で表現しながら内容を共有できているとき、物事がなめらかに進んでいったように思います。

当時と比べると、仕事は具体と抽象の行き来がさらに難しく、伝わり切れないもどかしさを感じることも増えました。楽しい日もある一方で、「上手く言えなかった」と一人どんより帰る日もしばしば…。

それでも幸いなことに、学生時代に心惹かれたコミュニケーションが、今も背中を押してくれます。そのあたたかな場面を思い出しながら、伝えることに自分らしく向き合い続けたいと思う今日この頃です。

同窓会ギャラリー

本学食堂に展示

「羊の夢」



「さかさま」



賀数伊沙知 (美36)

会費の納入方法について

※平成 26 年度より
改正になりました

【平成 26 年 4 月 1 日入学生から】

終身会費 20,000 円は納入済みですので、今後納入していただく会費はありません。
振込用紙の金額欄は「*****」となっています。

【平成 25 年度以前の卒業生】

会費納入について ① ②のどちらかを選択してください。

① 終身会費 20,000 円を納入

振込用紙の金額欄に 20,000 円とご記入の上、納入してください。
一度納入していただいた方の振込用紙の金額欄は「*****」となっていますので、
終身会費の再度の納入、年会費 1,000 円の納入の必要はありません。

② 年会費 1,000 円を毎年納入

振込用紙の金額欄に 1,000 円とご記入の上、納入してください。
複数年分を一度に納入して次年度以降の会費とすることはできません。
複数年分を納入していただいても返金することはできませんので、ご注意ください。

振込用紙は、同窓会日より郵送時の宛先を兼ねております。
そのため、平成 26 年 4 月以降に入学された方および終身会費を納入いただいた方にも同封されます。
すでに終身会費を納入していただいた方には、振込用紙の金額欄に「*****」と記載されております。
今後会費を納入していただく必要はありません。
※電信振込の方は備考欄に学科と期をご記入ください。

同窓会の会計は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までを今年度とします。

会費を納入される際は、納入時期にご注意ください。

例) 10 月 1 日に 1,000 円を納入、翌年 1 月 31 日に 1,000 円を納入の場合、同じ年度に 2 度納入していただいたことになります。
次年度分として取り扱うことはできませんので、納入時期にご注意ください。

住所・氏名等 変更申込手続きについて

住所・氏名等に変更がございましたら、こちらの QR コードを読み込んでいただき、住所変更等申込フォームに
必須事項をご入力ください。

入力後は「確認画面に進む」ボタンを押していただけましたら登録作業は完了となります。



2021 年度(令和 3 年度)
事業並びに活動予定

同窓生数

同窓生数計	15,056 名
保 育 科	5,543 名 (専攻生含む)
芸術学部音楽学科	5,351 名 (旧音楽科、音楽学部、芸術学部、研究生含む)
芸術学部美術学科	3,889 名 (旧美術科、芸術学部、専攻生含む)
社会学部地域社会学科	273 名

2021 年(令和 3 年)
4 月 2 日 大学・短期大学部
入学式 祝花を贈る
5 月 16 日 ホームカミングデイ：
中止
令和 3 年度 同窓会総会
：中止
9 月下旬 同窓会日より
「OTAN」第 45 号
発行予定
11 月 7 日 第 43 回谷の音会コンサ
ト開催予定(於：キタラ
小ホール)
2022 年(令和 4 年)
3 月 12 日 大学・短期大学部
卒業式 出席予定

訃 報

伊藤 巖先生(享年 90 歳)
木村雅信先生(享年 79 歳)

2020 年 12 月 13 日 ご逝去
2021 年 6 月 27 日 ご逝去
謹んでお悔やみ申し上げます。

《第43回谷の音会コンサート》

二〇二一年十一月七日(日) 十三時半より札幌コンサートホール(キタラ小ホール)におきまして、第43回谷の音会コンサートを開催します。

多彩なプログラムを是非皆様にお聴きいただきたく、多くの方のご来場をお待ち申し上げております。



感染拡大予防ガイドラインに沿って開催いたします。

新型コロナウイルス感染症拡大に関わる学生支援について

昨年九月、新型コロナウイルス感染症拡大に関わる学生支援として、本学独自の給付金制度を創設するにあたり、支援要請が高橋前学長よりありました。

同窓会本部で検討し、申請のあった学生に対して審査の上、給付を行うこの制度に対し、五〇〇万円の支援をいたしました。

2020年度収支決算書

(2020年4月1日~2021年3月31日)

札幌大谷大学同窓会真心会

収入 16,444,179円
支出 8,205,759円
差引残高 8,238,420円 (翌年度繰越金)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
入会金	2,340,000	3,170,000	△830,000	大学 219名 短期大学部 98名
会費	3,360,000	6,641,120	△3,281,120	大学・短期大学部在学学生(263名) 5,260,000円 卒業生 1,381,120円
雑収入	0	34	△34	預金利息
前年度繰越金	6,633,025	6,633,025	0	
合計	12,333,025	16,444,179	△4,111,154	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
同窓会便り発行費	450,000	418,000	32,000	第44号印刷費(7,600部)
同窓会便り発送費	900,000	632,838	267,162	// 発送費(7,600通)
消耗品費	220,000	20,034	199,966	事務用品 衛生用品・プリンターインク代等
活動費	600,000	176,520	423,480	役員活動費、交通費
通信・連絡費	250,000	135,260	114,740	総会案内、資料等発送費、電話代
印刷費	400,000	170,580	229,420	総会案内印刷、封筒、コピー代
会議費	400,000	120,624	279,376	総会、役員会等費用
慶弔費	200,000	129,400	70,600	各学部イベント及び卒業式祝花・香典など
補助費	500,000	210,000	290,000	各支部会員数別加算費
データベース管理費	80,000	55,000	25,000	名簿データベースメンテナンス
卒業記念品	500,000	270,000	230,000	卒業記念品
支部関連費	500,000	0	500,000	支部会議・交通・宿泊費等
行事費	1,500,000	439,832	1,060,168	谷の会展案内印刷、谷の音会コンサート関連
備品費	100,000	0	100,000	
雑費	733,025	427,671	305,354	終身会費重複納入者返金、振込手数料、その他
積立金	5,000,000	0	5,000,000	
寄付金	0	5,000,000	△5,000,000	在学生のコロナ対策支援金分として大学へ寄付
合計	12,333,025	8,205,759	4,127,266	

令和3年度真心会本部

名誉会長	千葉 潤 (学長)
役員	
会長	小原 明美 (短音14期)
副会長	佐藤 潤子 (短音12期)
会計	山口 由美 (保19期)
会計	森谷 直美 (短音33期)
書記	長尾 愛 (保29期)
書記	今野 くる美 (短音33期)
書記	笹木 穂 (大美2期)
書記	佐武 美香 (保24期)
会計監査	引地 玲 (短音44期)
支部長	
釧路支部長	泉 洋子 (短音12期)
十勝支部長	植松 恵 (短音13期)
オホーツク支部長	横畠 桂子 (短音19期)

編集後記

同窓会だより45号を無事に発行できました事に安堵しております。一日も早く安心して暮らせる日々が訪れる事を願ってやみません。